

出版社と図書館による共催シンポジウム

～本の可能性と図書館の未来について～

石川県立図書館(石川県金沢市) <https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

図書館と出版社が、共催イベントを通して相互理解を深めるとともに、本の可能性や未来について考えるきっかけを、読者および図書館利用者に提供した。20～60代が参加、会場からの活発な質問もあり、本に関わる様々な立場による有意義な意見交換の場となった。本を取り巻く「知の連鎖」の中で、図書館にできることの一例となったと考える。

取組詳細

本を世に出す出版社と、本と読者の出会いの場をつくる図書館が、本の可能性と未来について、ともに考えるシンポジウム。

1. 【イベントタイトル】
本の可能性と未来のカタチ
2. 【メインターゲット】
出版業界・書店・図書館で働く方、働いてみたい方、本を書く方・読む方
3. 【主催】
書物復権の会(岩波書店・紀伊國屋書店・勁草書房・青土社・創元社・東京大学出版会・白水社・法政大学出版局・みすず書房・吉川弘文館)
石川県立図書館
4. 【プログラム】令和5年10月7日(土)10:30～16:30
 - ・ 第1部 基調講演『いろいろな場面、いろいろな読者、デジタルがもたらすもの』 田村俊作(石川県立図書館 館長)
 - ・ 第2部 パネルディスカッション『企画展「十二文豪図書館二降臨ス～EPISODE with 文豪とアルケミスト～」を作るーこれも司書の仕事』 上田敬太郎・原有樹・河合郁子(石川県立図書館 司書)
 - ・ 第3部 パネルディスカッション『本をつくるひと、届けるひとー出版社の仕事』 橋元博樹・永沼浩一・鈴木クニエ・榎本周平(出版社)
 - ・ 第4部 パネルディスカッション『本の可能性と未来のカタチ』
1-3部の登壇者にて

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/event2023/3551.html>

写真:【上】【中】「当日の様子」(石川県立図書館撮影)、【下】「新文化」2023/11/23



基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 石川県金沢市
小立野2丁目43番1号
人口
(図書館が所在する市町村)
45.7万人
職員数(うち有資格者数)
34人(16人)
蔵書数
約110万冊

取組の成果と今後

【参加者】80名

【アンケート】44名回答

- ・ 図書館の企画展の裏側や、本が届くまでの流れについて話を聞くことができ、図書館と本が好きかな者として充実した一日になった。(読者)
- ・ 本には、著者の考えとともに編集者の方の想いも込められているのだと知り、本を手にとるときに私自身の感じ方もこれから変わっていきだろうと思った。(図書館員)
- ・ 本の不況は出版社不況であること、考えさせられた。(読者)

【記事掲載】

出版業界紙「新文化」11/23

【今後】

出版社・書店とともに、読者との交流や意見交換の場を引き続き設けていきたい。